

わが子へ自由を  
(30分 テアトロ掲載バージョン)

鈴木俊郎

登場人物

能美隆文（六一歳）

第一場 昼

膝の高さほどの石が舞台中央に立っている。

そこに男（能美）がくる。背広姿。手に三脚、そしてビデオカメラ、背にギター。舞台の正面手前にビデオカメラを設置する。

カメラをのぞく。

石の上に座る。手をその高さにキープしたまま、カメラの方向に腰をかがめた状態ですり足で移動、ファインダーをのぞきこむ。

能美 わかるわけないか。

また石のところに戻り、手の長さで測る。そして座った自分の頭の高さまでを手の長さいくつぶんか把握する。そして、カメラのところに戻る。

能美 いっち、に、さん、し、……

カメラのファインダーをのぞき、ファインダーから目を外し、を三度繰り返す。  
カメラの録画ボタンを押す。走る。石の上に座る。

能美 はい。こんにちは。…おはよう。お父さんです。

慌ててカメラのうしろに戻る。スイッチを止める。  
再生してみるようだ。実際にはカメラもただの箱、なにも撮られていなくていい。

能美 OK。（静かに）じゃ、いきます。

自分に了解を求めたのだろうか。静かに呼吸を整え、迷わないうちにさりげなくスイッチを押す。石に座りに行く。

能美　こんにちは。お父さんです。現在、六十一歳です。和人君、これを見てるあなたは今何歳でしょうか。撮っている今は、あなたは、二歳と、四か月……とちよつとです。ほんとは今、直接話したいんだけどね。お父さんは、あなたが大きくなるまではいないんだと思うんです。いやいません。残念なんです、先週お医者さんに行ったらがんだと言われました。悪性のが、腎臓あたりにあるんだと。何年もつんだろうか。

しばらく間。

能美、またカメラのファインダーを覗きに行く。

巻き戻して見ているようだ。

能美　……あとで編集する？いや、いい。一発でいけ。(間) はい。

また録画ボタンを押したようだ。石に座る。

能美　何年ももたないと思います。ごめんなさい。申し訳ない。「転移がある」と遠慮がちに、お医者さんが言っていました。悲しいか、という、はい。悲しいですね。さすがに。それは。だけど、そんなにすごく悲しいかというところなのではありません。うん。

どういふ感じかというね。(間)

お母さんに迷惑をかけたくないんだよね。ものすごい延命を頼んでものすごく長い期間、何年も何年も入院しちゃって、お父さんの病院にお母さんが通わなくちゃいけないとか、お金がかかるとか、そのわりに意識もなくなるとか、お風呂に入れるのも大変、とか、加えて頭もぼけてきてお母さんのことも和人君のことも忘れちゃうとか、そんな看病しがいのない状態はね、やめておこうとだけ思ってるんです。いや、ちがうか。正直に言うと、意味もなく苦しいばかりの化学療法とかが、怖いんです。副作用ばかり強くて「闘う」とか。「勝つ」とか。そんななんというか、壮絶な、というか。ごめんね。できたら安らかに眠るように、死ねるっていうしね。ご飯が食べられなくなったら無理にチューブはいりません。

いや。なんの話だ。それはもうお母さんに伝えました。お母さんは泣いてました。うれしかった。悪いけどね。泣いてくれるんだよね。と思うとね。和人君は泣いてなかったよ。踊ってました。なんの歌だろう。歌になってないんだけどね。一歩手前。こんなね。雑巾絞るみたいな。手の動き。腰も入ってるんだよね。笑いたかったけど、今はね。お母さん泣いてるのに。こんな話題なのに。一曲弾きます。

能美、クラシックギターをとりあげ、膝に乗せて弾く。ギターははじめから地面に横たえてあった。

「禁じられた遊び」。その途中で、やめて。ギターを地面にやさしく倒す。

能美　「禁じられた遊び」っていう曲でした。お父さんはちよつと練習しました。このビデオのためにね。喋ってじつとしてるのって見てたら退屈でしょ。うん。さすがにそうだと思う。だからね。この先またちよくちよく弾きますから、えー、楽しみにしてください。

せきばらいひとつ。間をとる。

能美　あなたが大きくなったら見たらいいと思うから、まだお父さんが元気でピンクのほつぺたしてる

うちに、録画しようと思って、ここにね。来ました。どこか、つていうと、どこなんでしょう。か。お父さんも、……よくわかりませんが、二度と来れないと思います。福井市内の、ちよつとはずれの、名前があるんだろうか。低い山の、道からちよつと入ったところ。ほら。木。高い。こつちも。あつちも。誰も来ません。木しかない。木。大きくなるんだよね。今にね。どの木が？どの木も？いやどの木も、つてことはないよね。どの木が大きくなったらどの木かは負けて枯れるんだよね。どの木だろ。この木かな。

みまわす。少し立って、歩く。まだ腰の高さくらいの木をさわったようだ。しばらく。やめて。

能美 いやだめだめ。枯れる木を探してどうなるんだって感じですね。大丈夫。あなたは大きくなります。あなたにはお母さんがいますから。それに、恥ずかしながら、十分なお金は残したつもりです。お母さんに残していきまから、

もうごめん。ほんとはお金じゃなくて、一緒にいなくちゃいけませんよね。存在ですよ。知ってます。お金にかえられないものがあります。ただ金ばかり持つてるひびじい、つて言われたくないから、じたばた抵抗してますけど。美術館行ったり、小説読んだり、哲学書読んだり。哲学書だよ？だけどダメですね。どんなことしても逆に「余裕のある方のご趣味」みたいなことを言われているような気がして、どこまでいつても人というのは。はは。

(大きな声) あなたにまず、最初に、伝えなくちゃいけない。いや、伝えたいことは。

あなたが生まれて、私はとつても嬉しかった、ということ。あなたが生まれて、私はとつてもよかった。思つたよりよかった。いや失礼。微妙な言い方をしてしまって、申し訳ない。思つたより、つてなにと比べとるんだ。はい。いや、思つていたより、というのは、私はもちろん子供をもうける、授かるというのはいいものなんだろうな、とは思つてはいたんです。いたんですよ。だけどそれは世間一般の、物知り顔の常識人の、世間から排斥されたくないがための、つまり「子供好きな平和な人種」つて思われた人たちの、そりやそう思われた方が「一般的」でね。「普通」でね。「多数派」でね。少なくとも「変人」ではなくてね。つきあいやすそう、害がなさそう、いやな奴じゃなさそう、商売うまくいきそう、世渡りも問題なく過ごせそう、だから気持ちがいいとは「六十パーセント子供好き」くらいでも人前では「八十二パーセント子供好き」くらいに言っておく、たくさんめに言っておく、というような、そういう打算の感想だと思つていたところがどこかあつたんですね。つまり正直な言葉というよりは誇張した言葉じゃないの結局それはさ、とか斜に構えて受け取つていたところがあるんです。誰に言われてもね。「子供つていいもんだよ」とかね。親切そうに言われるんです。四十超えて独身、子供もいない、というような状態になつたおじさんはね。

もう一つ言うんですね。それは結局この私に対してちよつとだけでも優越しているんだぞということ。そこはかとなく示している、そういう打撃をそこはかとなく日常の何気ない会話の中から私のおなかに与えようという魂胆が言わせている台詞ではないのか、とね。そういう邪推もしていたわけですよ。邪推。じゃなる推量です。よこしまなる想像です。いやほんとに勝手に一方的でひがみつぽくて天邪鬼ですよ。極端です。笑つちゃうね。だけどまあ実際そういうところがあつたわけですよ。

人が一生を生きていく、というのは大変なんです。争いです。いやもちろん愛し合い、協力し合う心地よい友愛の旅であるという側面もちろんなあります。それはそうですよ。否定しません。いや否定するどころか、今日のこのビデオレターの？映像作品の、後半部分のメインステージ、メインテーマにしておる、そういう予定をしておる場所でもあります。大切。それは最も大切。生きる上での最も楽しいこと。うれしいこと。大事にしていいこと。自分を犠牲にしても獲得しておきたいこと。それがね。ともだち、です。はい。

だけどね。あなたが一生のどこかで獲得するだろう、いや獲得しなくても気にすることはないんだよ、それに大勢いなくてもいいんだよそんなもの、地味に一人か二人でいいんだ。いや、二人もいない。一人でもいいんだ。いや、誰もいなくてもいい、お母さんがいるし、いや、お父さんは間違いない。



いう存在とか君のお母さんという存在を知らないということになってるっていうことで、もちろん僕は、それをそのままにしたくないというふうには思っていて、けどお母さんはそれをそのままにしているじゃないかと思っていて僕はお母さんがそういう気持ちであるということをお母さんに話さないで済んでるということになってるだけじゃないのかと自分で自分をいじめて考えるような状態になってるんじゃないかと思ってる。いや確かにお父さんはあなたのお母さんとは三十以上も歳が上で、そりゃやつぱり世間はそれを愛人だとか、君を隠し子だとか、古い言い方で囲ってる、とか表現する人だつてそりゃいるわけで、いや表現の仕方はいろいろあるからそりゃいるだけ違うんだ。一番重要なのは。…この国の人は、否定するんだ、つてことで。こういう人の関係のことを。否定っていうとニュートラルだけど感情が混じってて、恥や排除や嘲笑つまりあざ笑いは嫌悪感もつと言うなら差別の感情もまじってるわけで。そういう攻撃の中にあなただけをさらすわけにはいかないっていう点では私だつてお母さんの言い分に全く賛同できるわけで。しかし言いたいことは、だからと言って全力で私があなただけを愛したことは、あなたのお母さんを愛したことは否定できないつてことなんだ。愛してます。いやそりゃむしろ。

間。

能美 別の自問自答だつてできるわけ。つまりそれは周りにそんなふうには排除されるから、拒否されるから、否定されるから、その分ますます愛するつていうより執着する力学が働くのじゃないのか、バイアスがかかっているのじゃないか、いやつまり取られそうになつたら悔しさが増すからますますほしくなる餡玉みたいなもので、それだけのことで、これほんとの愛とは、言えないんじゃないか。ほんとなつてなんだつていうと議論があるけどつまり最低限、自然な感情としての愛ではないということじゃないのか、つて。いや。だけどこういう状況に追い込まれてる以上追いついてない状況だつたらどうなのか、つて考えたつてしかたないところがあつて、つまりあなたが生まれたその時から、いやもつと前、あなたのお母さんと愛し合い始めたその時から、こういう状況じゃない状況で愛し始めたわけでもないあなたのお母さんに対する感情やこういう状況じゃない状況で生まれたあなたに対する感情というものははじめから可能性としてもなかったわけで、つまり自然だ、つて世間は言うかもしれないけど、私とあなたとあなたのお母さんとはそういう状況のほうにむしろ私とあなたとあなたのお母さんとはそういう状況だとすらすら言えるわけで、だから自然こそ不自然で不自然こそ自然なのかもしれない私にとつては、いいんだそんなふうには疑わなくてもつて思えばかりで、思えばいいんだ、つて思えばかりで、だから思ってるんです。思ってるつていうふうには思っていないよ、つて無理して思おうとしているところがないのか、つていうとなくはないんだだけだからつまり、いいんだ。僕は、この状況の中でという条件のせいじゃないかなどということは関係なく、いや関係あるのかもしれないけれど、事実として、つても。あなたを愛してる。あなたのお母さんを愛してる。うん。まあだけど大きな声で聞こえるところでは言えないのが申し訳ないわけ。だからこういう誰も来ないひとけもない場所でこのビデオだつて撮ってるわけ。ああいやだ！死ぬのいやだ！

ギターを持つ。静かに弾き始める。

唐突に、曲の途中で終わる。

能美 「禁じられた遊び」つて曲です。ヨーロッパのね。白黒の映画の中で延々と流れる曲なんです。

もちろん映画の中のギターはもつとうまいよ。上手。お父さんのこれの二十七倍上手です。三十二倍上手です。いやそんな二ケタくらいは違うか。もう死にたくなくなるくらい上手です。貧しいスペインの女の子がね。うん。悲しくてね。白黒っていうのは想像させるしね。完璧な映像じゃないほう

が悲しいんだね。それもあある。だから演奏もね。完璧じゃないほうがいいのさ。

ギターを地面に置く。

能美 セックスの話を。次は、します。あなたはもう大丈夫。な年齢になったころにこれを見てくれる、はずだから、あなたはもう経験したでしょうか。セックス。僕は、

間。

能美 まあ人並みにそのことについては悩める青年で、うまくいなくて、人並みに。若い頃。コンプレックスもあつて。若い頃。たつぷりあつて。いやきつとそりやそのへんの並みの若者よりはたつぷりゆつさり、ずつしりね。あつたなあ。とつてもだめだと思つたからもう全然人と話せなくてああもう最低級の男子。という人たちの中でもさらに上中下とあつたら下に位置するな、ということは断言できます。というようなことを断定的に考えるそのへんの普通の男子らしく男子で。だから。大丈夫。あなたもきつと大丈夫。自分だけじゃないから。皆ダメなんだから。大丈夫なんだよ？自信もつていけ。自信なんて持てないか。持てないから男子なんでね。じゃ自信なくていいから攻めていけ。いいんだ攻める攻める。積極的に、アタックだよ。アタックつて攻撃つていう言葉だよ訳すとね。攻撃は最大の防御なんだから攻撃！いや敵じゃないんだよ女子はね。だけどそりやもう強大な、太刀打ちできない難攻不落の敵に見えるんだから。コミュニケーションの対象とかには到底ね。思えない。うるうるしやがつて誘惑しやがつていや誘惑なんかしてないんだよね女子は意外とあれでもそりや勝手にこつちが誘惑を感じるだけでだけでもそりや猛烈に感じちゃうんだからちよつとは理解してくれよと思っただけど理解つてね。できあえないから男子と女子なんで。ああ助けて！つて時間が長かつたなあ。大丈夫。君だけじゃないから。少なくともお父さんはね。そうだったんだよ。四苦八苦、なんとかかんとかした。セックスを。初めてのお相手は初めてのお相手です。二回目のお相手は二回目のお相手です。さつさと別れたりしつこくつきまとつたりつきまとわれることもまれにあつたりして出世したなあと思つた頃に結婚して。ああ。なんとか人並みかなあ、と思つた頃にはおっさんだね。おっさんになつて。こんなもんだと思つた。人並みのことをね。感じてるんだなあ、とね。しかし間違ひでした。

間。

能美 きもちよかつた。正直に言うと。セックスが好きだ、つて思つた。あなたのお母さんとのセックスは、気持ちいが、こう、交流するよな、とても、もう。五十も半ばを過ぎたのに、初めての経験のようで、いや。初めての経験でした。ちんぼとまんこのこすれあい、つて要約すればそうなんです。あくまでもそれは。だけど。そういう粘膜同士の摩擦、つて割り切れないというか、ありえないよなこのなんでしょうね。なんなんでしょう。

間。

能美 以上。この話終わり。いやだつてさ。触れておかねばと思つたんですねここは必ず。申し訳ないですが間違いなく気持ちいいセックスの結果、あなたが生まれたのだということ、(唐突に強く)おい。あけすけに語るぞ。あえて語るぞ。最高だつたぞ。お母さんのまんこは。お父さんのちんぼは。だつて、こんなこと、言っておかないと、誰も知らないままじゃ、なかつたことになつてしまう。私はあなたのお母さんのことを好きでしたよ。もちろん人格的に、性格的に、もつとと言うと抽象的に存在として、実存的に生きている意味の上で、あなたのお母さんという人間の価値に支えられていると

いう意味で、もちろん魅かれています。魅了されています。高い次元での愛の高さ、というものがあつたのかもしれない。いやそこはもちろん断言しましょう。断言しておいた上でもう一回あえて、確認したいのは、私たちは、低次元なレベルで、肉欲というあさましい行動の水準で、脳みその外つかわの皮質の高級な生物としてではなく、内つかわの、呼吸の回数とか血流の速さとかそういうのを司る低次元な、鳥みたいな程度の身体の機能のレベルで、お互いが必要とした、つてことなんです。どうですか。どう？……かっちよよくない？誇り高くない？さあどうだ。いま、

間。

能美 このビデオはとっても他の人には見せられないビデオになりました。はっはっはあ。あれ。

見回す。まわりを。

能美 日が暮れてきた。ちよつとずつ。お父さんはこれ、ビデオの機械、会社の借りてきたからね。帰らなくちゃいけないわけです。あなたの父は社長です。だから意外と時間は自由になるんですが、一生懸命働いてくれる社員たちを思えば、また社員たちの視線を気にする小さい肝っ玉を前提とすれば、そう好き勝手にはできないわけです。日が、暮れてきた。

遠くを見る。

能美 また一日が終わります。いや、やっぱり一日の感じ方が違ってきます。(急に毅然となって) だらだらと生きるのはやめたい。もう残り時間は少ない。やれることをやり切れるのか？焦る。だから最後だと思つて撮ります。いつも、今日が最後。最初で。ははは。

椅子を外して、腕立て伏せを始める。

能美 ふっ！ふっ！ふっ！違う。違う！違う！違うんです。

椅子に座る。

能美 私が、あなたに伝えたいのは、きつとそんな肯定的な立派な私だったんだよ、って自慢をひらひらひけらかすようなぬるい言動を残したいからじゃない。違う。むしろ逆。逆です。虫唾が走る。私は。とんでもない奴なんです。嫌悪感と劣等感とそういうものの塊のままこんな年齢になって、六十一歳だよ？けどどうなんだこの自己肯定感の乏しさよ。低さよ。貧しさよ。世間の六十一歳ってどうなんだろう。こんなじゃないんじゃないだろうか。いや。皆きつと語らないのです。そりや恥ずかしいからね。いや誰も聞いてはくれないからね。だけど。実際はね。後悔。自己嫌悪。罪の意識。だけどただ死ねば消えてなくなる。なくなってしまう！わかっている。承知しています。だからあきらめろ！あきらめろ！

急に腕立て伏せを始める。

能美 ふっ！ふっ！ふっ！ふっ！ふっ！ふっ！

その場に力尽きそうになって呆然とひざまづく。間。しかししばらくしてすわる。



能美 うわ。自己嫌悪に酔ってんのかっ！自分が嫌いな私って人は、って気持ちいいのかっ！（間）  
気持ち悪いっ！いや違うんです。もういいんですだって いやごめん。つまり。僕は。

椅子に座る。

能美 半端だった。実に。半端者でした。戦争に、反対はしてました。若い頃、ほんの短い時期、明らかに反対運動に参加した。共産党みたいな政治組織にも入ってました。共産党じゃないけどね。むしろそっちより過激な方。だけど逃げた。逃げるっていうかけつけてやめた。脱退しました。つらかったんです自分の時間がそれほど取られちゃうのが。土日もなく連休もなく会議やらデモやら集会やら。そのわりには自分の好みじゃないださい歌を歌ったり、へんてこな行動を兵隊のように強いられる大衆動員路線の不自由さ。だけどきつと一生。僕は逃げられなかった。申し訳なき情けなさ劣等感そして自己嫌悪から。いろいろ違和感はあるでもこらえて断固として資本に、権力に対峙し続けたあの先輩たちに同期の友たちに。自分は半端にその後デモに気が向けば行ったり、だけど大半の時間はノンボリのふりして僕はただだから、オルグしたい。しきりたい。君を。

間。

能美 オルグってね。オルガナイズっていう英語です。いやドイツ語でオルグゲーエン？いや違うか。違うかも。違いますけどつまりオーガニゼーション、組織に入れる、って意味で。まもともと労働組合に入れよ君、とかそういう言葉です。共産主義者になりましたまえ君、ってやつです。そういう左翼用語です。宗教のことばに翻訳したら「釈伏」ってやつです。講釈を垂れてひれ伏させる、ってことです。ひれ伏すってどんだけ偉いの。あんた何様？ええ傲慢ですいずれにしても上から目線。自分が正しくて正しい私が無知の物知らずのあなたを導いてやろうというなんという鼻持ちならない。きやあ。

間。

能美 けど今からやりきろうと思います。これが、この僕のこのビデオの具体的な獲得目標です。どうして？どうしてだろう。だって。確かに、戦争をなくしたい。戦争というのは弱者と弱者が痛めつけあうあほらしい行動で、強い者は上空高く安全なところにおいてうっほうほ儲かる。だからやめさせたいんです。あたりまえだ！けどもうすぐ死ぬのに俺は？そう。それはそうなんだよ。なんだよ！え？あれ？

間。思考の流れに抗おうと、ギターを手に持つ。

能美 むなしくないですか？平和にするって言ったって。そもそも我々の存在っていうのは。そもそも。なんの意味がある？

ギターを弾く。「禁じられた遊び」。終わって。

能美 ああ……。

ギターをもったまま。

能美 どうしよう……。

間。そして、カメラのスイッチをオフにしようと手を伸ばす。

能美 だめ。だめ。だめだめだめ。なんだろ。なんだろ。なんだろなんだろなんだろ！(肩を上下にゆすり、拳を激しく上下させ、歩き回る。) 停止はしない。停止ボタンは押しません。私はねまわしっぱなしで行くんだ。この、今の、私の、編集しないそのままの三十分か四十分か、をなんというか、見てほしいんだ。見てると、それがそのままそっちの時間の体験になるような。つまりそれは一緒に生きてることになるような。そんな時間を、君と過ごしたいんだ。だから見て。止めないで。そっちも停止ボタン押さないで再生のままできて。今そう。今その通り。負けそうになつた。僕は負けそうになつた。もうすぐ死ぬのになにが戦争反対？ 小さい遠いんだかい子ちゃんの標語じゃないの？ あれ？ おい！ いかん、と思った。考えてたこの日の目標が消えて今のこの時間が意味がないように感じてつまりそれは人生全体が意味のないようなものを感じてタイム！ ちよつとタンマ。ハータイム二分間水飲ませて、つて言いそうになつた。なりました。だけどダメ。ダメだダメです。いま目の前で勝つて見せよう！ 人生は、むなしなものじゃない！ 人類の平和は、むなしモノじゃない！ んんんんん。

立つ。座る。立つ。座る。

能美 夕日になる。夕日がますます夕日の色になる。……修学旅行。中学の時の修学旅行が、僕は全くまるつきりダメだったんです。つまらなかつたんです。そりやもう二度と繰り返したくない、二度と過去には戻れないからほつとするとというような集団行動の中の孤独。なじめない学校生活だとは思つてなかつたのになんたろう無理につくらされる四人グループ。仲良しグループはあつたという間に四人組ができてしまつてそうならどうしたって人数のあまりばかりがかすかすかすかすかすか残るじゃないですか。そりやそうでしょ仲良しグループはいつだつて四の倍数でできてるわけじゃないんだ！ 仲良しだね、つて思う熱の高いのから順番にさささつて手つないじやうと同じグループでも実は仲良し度合いが低いと思われてたのか、つてあぶり出されるみたいにみかんの汁の文字がストープでほんやり黄色く見えてくるみたいに気づかされた五人目と六人目と九人目と十三人目と、そんなんばつかが呆然としてしまつた学級会の時間の経験をしてね。傷ついて見放されたカスの集まりのかすかすグループがね。信州を自由行動するんです。午後の四時間。長野県の白馬高原とかを歩くの。普段仲良くないのが一緒に夜のかくし芸大会の出し物考えるんです。もう修学旅行く前から帰りがかつた。当日は予想通りに。惨めで。周りがとても楽しそうなのに合わせて無理になんとか仲良くなるうとして笑おうとしている僕らの中はやつぱ僕らは五人目と六人目と九人目と十三人目だなつて。見放されたいらぬ人間だなつて。ずつとそう思われ続けて二日目の夜。かくし芸大会。もういいつていうのに「いええーい」つて佐々木君が声高くして。いいよ佐々木君。僕らの班はあだ名ですら呼び合うのが不自然な間柄じゃないのはしやぐなよ。つてほつべたひきつらせながらね見てた。皆のかくし芸。つまらないつまらないつまらないつまらないかくし芸。何番目だろう。高田さんたちの番になつた。女の子。僕が勝手にいつも目の端つこで気づかれないように見てた高田さん。と仲良しのこれまたとつても美形の樋口さん。どうしてまたこの子も？ つていう中山田さんと泊さん。アカペラで四人組が歌つた。それが英語の歌。「I Can't Help Myself」。テンプテーションズ。びっくりだよ。中学生だよ。英語つて？ 当時の僕らにしたつてもちよつと懐メロみたいな。モータウン。アメリカの。黒人の恋の歌。のりのりの。リズムの細かい。踊りが。……かわいくて！ 「シュガーパイ、ハニーパイ、」つて聞こえるんだよね。ほんととちよつと歌詞違うみたいだけど。「シュガーパイ、ハニーパイ、」ぶぶぶぶん、ぶぶぶぶん、「シュガーパイ、ハニーパイ、」ぶぶぶぶん、ぶぶぶぶん、……勃起した。ああこれを勃起というのだ、というような見事な勃起を。僕は典型的な内向的な男子中学生だった。だけどその「シュガーパイ、ハニーパイ、」……(踊る。リズムだけは想像できるような愚かな動き)あれ初恋つていうんだろうか？ ちんぼこの勃起なんだけど。忘れられない。四人の赤いほつぺ。英語

の歌であるぞということ自体にびっくりしてる五十人ほどの中学生ギャラリーを前に照れくささをこらえて赤くなってる女子中学生。やけくそに踊るみたいな強い声がよく熱を発して赤くなるんだよね。汗でぬれてるおでこ。白い二の腕。それなんの衣装？黒人グループの衣装のつもりかな。肌の露出が腕白くてね。そりやもう。……勃起ですわ。でもその。これなんの感情？なんだろう？この胸の中の前の方からのどの方にこう、ほくほく、はくはく、ってせかすみたいになんか呼吸をせつつくみたいに飲んじやうのんじやう空気飲んじやうみたい、こういうこの感じ、感情？立てないし。勃起してるから。けど息は苦しいし。耳まで力入って。人に感づかれるんじゃないかと思うと怖いし必死で普通にしてようとする佐々木君妙にこつち見てるし。あつちみるよ。なに真顔でこつち見てるんだよ。いま「いえーい」っていうとこだるおまえ頑張つとけよおい五番目野郎！九番目野郎！十三番目野郎だけ俺だつて！ああ！

問。

能美 少数派のかなしみ。中央にいた輝いてた美形の女子たち。とても遠くで惨めだつた間違いないクラス内の最底辺の自分。……あこがれ、っていうのは人を傷つけるよね。悲しかった。とつても悲しい景色として、ここに、胸に、今でも残ってる。勃起の記憶と混じって複雑になっちゃった状態で。確かに、だからかな。つまり。それは確かなんです。「俺は、ここに生きてる」って感覚？感じ？感情？っていうのが、あんなにうなりを立てるみたいに強くあつて。ふきあれてて。あんな時間。僕はきつと、あの時間を恨むために、恨み続けるためにより深く恨みぬくためにそのあとの長い年月を生きてきたような気がする。だからとても大切な時間なんだよ？俺はやつぱり高田さんを自分と同じ生物の階級だとは思えないもんね。今でも。いや今あつたら普通におぼちゃんなんだろうけど、高田さんは。半分以上老人の。けどもそれはあの時間の高田さんとは別人だから違うから。つまり俺は認めない。おぼあちゃんの高田さんはんこもするし手鼻もかむだろうけど、女子中学生の高田さんは当時うんこはしてなかつたし鼻水というものを所有してなかつたんだよ。俺は。

(問) あの男子中学生だつた俺っていうあの男の子のためになら、なんだつてしてやりたい気持ちでいるんだよ。今でも。惨めで、あわれで、とりのこされて、あこがれたその先から見捨てられる、見つけてもらえない、そんな奴が、確かに、この世にはいる。そういうことを俺だけは間違いない人より知ってる。だつてそれは俺だつたから。証拠と言ったらこれ以上確かなものはない。だつて誰も認めないつて言つても俺は疑わない。誰もが差別や抑圧や弱者の強者による圧迫なんかない、考えすぎだ、考える必要もない、問題にならない、うまくいってる、つてもし口をそるえて言つたとしても俺だけは知ってる。皆は気づいてないのかもしれないけど俺は気づいてる。ずっと前から。中学生の頃から。そこに、いる、つてことを。

座る。せきはらい。

能美 だから。いやだからつて言うときさいよね。結局おまえが主観的に、自分の経験をもとに、偏つた自分のものの見方を育ててその結果の歪んだ視点から世界を見るから育てたモノの考え方だつていうこと？いや違う。違わないかもしれない。いいじゃんかどんなことがきつかけでも。俺は、どうしても多数派の勢いを白けて眺めるようになったし、少数派の気持ちに気づくようになった、

勝手だけど確率の問題として、君はこんなの聞くのいやでしょう。この国の若者はいま、とつても今ね。右傾化してるんです。右に偏ってる。一部がね。で、大半は、ほとんどすべて多くは、考えようとしてない見ようとしてない自分に関係ないと思ってる。日常生活がおいしいか楽しいか涼しいか温かいおもしろいかいけるかのりのりか笑えるかっていう手の届く範囲の小さい小さいことにしか興味がなく関心がなく戦争がどう政治がどうか誰か話し始めると一斉に気持ちがひく。潮が引いていくように顔が無表情になつて退屈をかみ殺すみたいな眉毛が平坦になつて信じられない。かた

「いかしこそーいつまで続くのこのトークくって心で呟いて時々口にも出す。ましてやそこから十五年も二十年もたった頃、君がこれを見てる頃、実際のところ僕の子供だから特別なんだとかいうことは虫のいい想像でしかないことは僕は知ってる。承知の上だ。聞いてから判断して。止めないで。お父さんも止めないから。ああん。(せきばらい。ポケットから切り抜きをとりだす。)」二〇一四年七月一日、自民党安倍内閣は、集団的自衛権行使のための閣議決定を強行した。」つまり、(腕時計を見る。)うわ。あれれ。(空を見る)わわ。夕日が。夕日に。まずい。あのね。時間がない。今からだったのに。ちよつと待って。うん。これだけ。続きは、また、ええつと。(内ポケットからスケジュール帳をとりだして)明日、明後日、……明後日。にいきます。とります。ごめん。これは停止は停止だけど、息切れの停止じゃないから。ずるじゃないから。じゃこれだけ。一気にこれだけ。

「自民党安倍内閣は、集団的自衛権行使のための閣議決定を強行した。」これ、今二〇一四年の大事件です。自衛って自分を守るってことです。殴られそうだ！だったら殴る！……百歩譲ってね。それは認めようか。いや譲りたくないけどね。でもそういうの個別的自衛権って言います。集団的、っていうのは、自分は殴られないんです。お友だちの佐々木君が殴られる！高田さんに！だったら俺は高田さんを殴る！いや高田さんは全然私を殴る気はないんですよ。びつくりです高田さんとしては。だって高田さんと佐々木君の間のケンカです。でも関係なくても俺っち佐々木君と同盟してるから助太刀すんのさっていう自衛の仕方です。それ自衛っていうか？ケンカしたくて仕方ないやつ無理ですな。やくざ？いいがかりつけたいチンピラ？ていうかそもそも自衛、ってことばがうそだよ。太平洋戦争って、日本が負けた戦争ね。あれはほぼ日本という国土、地元は戦場になってないんです。知ってた？地図、開いてみよう。どんなに時代が悪くなっても、せめて高校の歴史の時間、地図帳ってあるでしょ？開いてみよう。ほら。ぼん。日中戦争から続いた戦争は十五年間。そのうち終わりの九か月くらいが、遠く南の島の樂園のサイパンから飛行機がビューンときてどかどか、って爆弾落とされちゃった、つてくらいで、申し訳ないけど戦車が走り回るような戦場になったのはずっと日本の外ばかりか。南の端っこの沖縄が最後の五か月くらい戦場になっただけで、ずっと外でやってたつて言っているんです。日本、ここ。ちっちゃいね。ここ中国。広いね。どわーっ。日本兵だらけ。戦場！鉄砲！刀！フィリピン。ベトナム。カンボジア。つまり東南アジアひるーいどわーっ。戦場戦場戦場——。その頃日本、ここでは、静かですねえ。俳句でも詠みますか……ほーほけきよ、これがね。あの戦争の実態です。ずいぶん一方的ですね。こういうのを、侵略戦争っていうんです。犯して奪ったんです。ワンサイドゲームです。阪神巨人戦二十七対一で九回裏ツーアウトまで行きました。いいですか一年。こんだけ。(手のひら一個分の幅を中空に示す)二年。三年。四年。五年。六年。七年。八年。九年。十年。十一年。十二年。十三年。十四年。十五年。(こ)から、(走る)ここまで、が外で戦場。戦争です。そのうち、一年の三分の一。こんだけ。(手で示す)が、五か月が、南の島のちよつとが戦場。これが、前の戦争の実態です。戦争やってるけど国内は静か。お茶でも飲みますか。和菓子も甘くていかんね。かつこーん。これが、戦争の日常です。そう。今、まさに同じなんです。だからみな気づかない。

うわごめん！(腕時計を見る。慌てて気をつけ。いやもう一回慌てて椅子に正しく座る。)今日は以上。ごめん！だけど止めないで！チャンネルはそのまま！

転換。照明が青くなり、あわててギターを片付ける能美の姿が見える。音楽「I Can't Help Myself」。

役者は水を飲み、衣装を着換える。少し休憩。音楽が小さくなるまでには椅子に座っている。

## 第二場 翌々日の昼

能美、椅子に座っている。一場の服より少し季節が寒くなったのか？と感じさせる衣装の変化。カメラのスイッチを押す。

能美 「安倍は自民党公明党の密室協議でひねり出した『武力行使の三要件』で、歴代政権が憲法違反としてきた集団的自衛権行使を認めることを閣議決定した。本来なら一内閣によるこの解釈改憲の『正当性』を憲法に照らしてどう解釈したら正当であるのか、説明しなければならぬが、彼らはそれをしない。安倍は『憲法解釈の基本的考え方はかわらない』とうそを並べることに終始した。」

日本国憲法の第九条はね。「戦争しない」と言ってます。だけど歴代政権は「だけどもあ自衛の戦争はしますよ」「書いてないじゃん」「いやそりや文章の解釈の問題でしょ」これで通してきた。ダイエツトしなきゃ。って決めた太つちよ一家には「私お菓子食べない」って憲法があるのに、しずかちゃんは「だけど夜は食べるでしょ」「書いてあるのに」「そりや夜のお菓子は別腹よ」ってわがままちゃんなのと同じ。これじゃデブになっちゃうのに。昔とりかえしのつかないデブになって一回猛反省したから作った憲法なのに。だけどもあいいか、ぎりぎりいいか、って譲ってきたのが戦後七〇年の日本の情けないしずかちゃんちの歴史。「玄関では特別食べていい」とか「トイレでは今日だけ食べていい」とかいりいり例外つくつてきて。だけど今回はいくらなんでもね。「朝昼晩食べますし食堂のテーブルでも食べますしでも大丈夫ダイエツトの考え方は変わらない。」ってちよつと無茶苦茶やないですか？そこまでやるんだったらもともとの憲法を変えないといけなくないの？って普通に反論するのび太君。「お菓子食べない憲法は基本的に守っております」って言い張るしずかちゃん。

どうう？  
実は安倍さんは総理になってから、なる前からずっと「正式に憲法を変える」って言ってきたんだよ。もうちよつとまともにやろうとした。国会議員の三分の二で可決。発議。そのあと国民投票。過半数で決定。ていう二段階をやろうとして、国民投票法って制度も整えてきた。いちいち反対する人たちを無視して強引に採決してね。だけど国民投票したら負けるな！これはね——と新聞の世論調査なんか見てて、つくづく気づいたんだね。だからやめた。憲法改正はしない。解釈をちよつとまた変えるだけだよーん。で、国民の半数以上が賛成はしてない変更を、してしまった。ルール違反。ずるだ。卑怯だ。チキンだ。ニワトリだ。いやそんなのニワトリに失礼だ。

怖いんだよ。彼らは、憲法九条を変えるってことは怖くてできない。こんなに強くて美しい文章が、一国の憲法に堂々と定められているなんて奇跡だ。国民はやっぱり愛してる。この崇高なる文章を。そうだ。読もう。読むんだ。日本国憲法、平和主義を定めた文章。

「第一項！日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄するつ。

第二項！前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めないつ。」

こんなにきつぱりと、完全に、戦争しない。って大声で断定してる文章、ありますか？戦争だけじゃない。戦争以前の武力による威嚇もしない、って言ってる。おらおらいうこと聞けよ、ってナイフちらつかせて脅かすようなことはしないのだ。そのために陸軍も海軍も空軍も持たないってここではっきり言ってる。すごい。その上、「その他の戦力」ってなんだ？陸でも海でも空でもない軍隊？そのうちによるりん軍とかペロ軍とかわけわからん名前のもともんでもなく強い軍隊をナントカ総理大臣が抜け道考えて作ったとしてもそれもすべて認めないのだあつ！ってこの九条って人はね。すごく力んで頑張ってる。国が戦争する権利をそもそも、認めないんだつ！ここには明らかに、だれかに攻められても攻め返さないんだ、って徹底的な覚悟が、語られている。それは、正義

と秩序を基調とする国際平和を誠実にのぞみ、求めることをするんだ、そういう立場にいつでも明確に立てば、それが最大の防衛になるのだ、って思想だよ。憲法前文にも明確に書かれてる。堂々とほら。「私は手ぶらだよ。素手だよ。たたくならたたきなさい。皆見てるよ。話し合おうって両手広げてるのはこつちだよ。お天道さまが見てるよ。たたけるの？私を」って開き直って迫れば相手もナイフをおろさざるを得なくなるんだ、ってなんてステキなヒーローなの？なんてかつちよいい哲学なんだ！こんな憲法を持つ国に、私たちは生きていく！どうだ！

「第一項！日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求しつ、中略つ！国の交戦権はつ、これを認めないっ。」

能美、高い興奮。やがてさめたようだ。肩を落とす。座る。

能美、ごめん。体調に限度もあつて。それに。う。(胸をおさえる)あなたのお母さんがね。うん。

(顔をあげる)別れるっていうんだ。お父さんと。私と。はああ？(立つ。座る。うづくまつて)相続でもめたくない、っていうんだよね。(急に大声)いやもちろんさ。書くよ。遺言書を。公正証書にするよ。びつくりはすると思ううちのあのアイスキャンデーみたいな奥さんは。突然現れた愛人。隠し子。はい。お金も土地も彼らに少し分ける。分与する。だつてじゃなんのためにお父さんは働いてきたんだ？俺の金だ。俺が稼いだ金だ。いや百歩譲ろうもちろんじゃ奥さんが支えてくれたからこそその金だ。だから半分奥さんのだ。そうかもしれない。そうだよねそうかあ？あのアイスキャンデー、家に帰つても「お帰りなさい」の音程はいつだつてソプラノじゃなくてアルト、テノールじゃなくてバス。低い。太い。小さい。いや夜の半分はうちにいないじゃないか。おかえりなさいもないじゃないか。飯だつてつくりたくないじゃないか。遊びほうけやがつて。俺の金で。勝手な買い物ばかりしやがつてなんだ意味不明の太い台形みたいな額に入った玄関正面のあれは？絵か？前衛？現代美術？実験芸術？成功してから言え実験とかいや少なくとも成功を目指してやれ実験だつたらなんだあんな定規で引いたみたいな黒い太線俺でも書けるわ！

玄関先の、あの、絵が……びゅん！びゅん！どこん！ぱりっ！(線を描く動作から破壊する動作に移行する)何回脳内で破壊をシミュレーションしたことか。疲れて家帰るたびに正面で賢そうに待ち受けやがつておまえは温度あるのか！体温がそもそももあるのか存在してるのかおまえなんかっーんだ。勘違いしてばくつてかじつたら四秒後にこめかみのところがっーんだ。冷えすぎなんだよこのアイスキャンデーちよつと考えて冷蔵庫の温度調整しろよメモリがあるだろメモリがあつ！(座る。力が抜ける。)世間の決まりは知つてるよ。だけどさ。ものには限度があつて程度があつて。あんな女に遺産分割半分与えるなんて必要はちつともない。全くない。まるっ　つきりない。完全にないんだ。だけどそんなのに対しても俺は取り分を用意するつもりだよそれにしたつて普通の老人一人余生を生きていくには十分な額だよ感謝されこそすれ怒りを浴びる筋合いはなにもない！いいんだよ気にしなくてもそんなに大半君たちにあてがいますつて言つてるわけでもなくてそりや私だつて残された立場の摩擦のつらさを想定してそりやおさえ気味にね。自分の欲求を抑制してね。書こうと思つてるんだよ遺言をさこれでも。いやその抑制つていう奴にしたつてもそもそも理不尽じゃないか？理不尽だよ？びゅーんだよ。びゅーんだよ。ばかん！どこん！ぱりっ！……(力が抜ける)法律だつてこういう場合のことを想定して「遺留分」つていう制度を用意してる。遺言書いたつて全部が全部は言い分が通らないように、半分は遺留分でおいてある。つまらん法律のつまらん取り決めに従う分だけは法に守られた正式な家族つてつまらん連中に取り分があるつて決めてある。そつちに守られてぬくぬく分けあえばいいんだからだいたい遺留分という制度が用意されているということはさ。つまり遺留分を主張したくなる納得できない遺族というのが常に世の中にはたくさんいるからだよね。ということとは逆に法律に従つて法律に守られてる正式の家族に法律が定める通りの割合をこつぱり与えるのはや証明じゃないの。普通なんだよこんなのはだから気にしないで受け取つてくれたらいいんだつてなん

なのそれなのになに？なに？なんなの？なに？

ギターを取り上げる。ひく。「禁じられた遊び」。  
終わる。

能美 大丈夫。愛だけもらってるから、自分で育てるよ。……

暴れる。のたうちまわる。すべりこむ。止まって。静かに。

能美 だからって別れることはないじゃないの。俺が死ぬ前に別れておかないともめる、って言うんだよね。もしかしたら奥さんが気を使ってくらか包んできたらそれはそれで気づまりで死にそうって俺が今死にそうなんだよ。俺の言い分通せよ！だいたいうちの奥さんがそんな気、使うかよ。アイスクャンデーなのに。きーんなのにつーんなのはあつ！（まっすぐ立つ。天をにらんで。そして横目にカメラを見て）これを見る君には、同じだよ。もうその頃には別れてる。もちろん、どっちにしても私たちは死に別れるのです。もうすぐ。生き別れるのか死に別れるのがちよつと違うだけでどっちみち別れてるのです。十五年も二十年もたった頃には。私はこの世にいないくて君はそこにいて私を見る。ね。

カメラをまっすぐ見る。間。座って。天を見て。

能美 待て。待て。まじめに悲しくなつちやつた今。落ち着け落ち着け。俺どうしたらいい？どうしたらいいの？このビデオ、だいたい撮ってていいのか？届くの？いや別れる前にはあなたのお母さんに渡しちやえばね。あなたにきつとお母さんは見せてくれる。大きくなった頃にね。だけどね。ああ。今とても小さいあなたはなにもわかってなくて、会うと高い声で「おかえり——」って叫ぶみたいに歌うみたいに走ってくる。その歌みたいなおしゃべりにもう会えないっていうの。いやだ。いやだ。もうちよつとあるのに。もうちよつと俺この世ににいるのに。その最後までくらい短い時間だから会ってくれていいじゃないかい？いやだいやだいやだいやだいやだいやだいやだいやだいやだいやだいやだ（走ってカメラに。カメラをつかむ）愛してる。愛してる。大好き。大好きだよか？くん聞いてるか——。あ。

あまりにも見苦しい場面を残してしまつたかと停止ボタンに手を伸ばす。しかし手を止め、こらえて、椅子に戻る。

能美 お見苦しいものを。見せてしまいました。申し訳ない。ごめんなさい。だけど、俺はなにを残したんだろう。奥さんのあの家には金と安定しかない。あの家が家だとしたらそれはホームじゃなくてハウスだ。ただの建築物だ。ホームじゃなくてハウス以前にビルディングなんだよ。いやだからそここないからこっちに、ってそういう後ろ向きな理由で君らのことを思う、思ってる、ってことじゃない。ないのさ。だけど。今。君らと別れるのは。さみしい。さみしい——。俺にはなににもない——。

天を仰ぐ能美。

能美 しかし。こんなことになっても、自分は世界の未来を信じる一人の主張ある男であつたと知ってほしい。そうなんだ。俺は俺の愛を貫くために、そのために証明する義務があるんだ。俺は一人の間だったと。君のお母さんはなんだかんだあつてもきつと私のこのビデオを君に渡してくれるだろう。君のお母さんだつて私を愛してる。離れたくないという私の気持ちは理解してくれてる。そうだよ別

れたいって言ったつてお父さんはきつと別れないぞ。そんなもの別れてたまるかお父さんだつて意地だ。さいご息を引き取るときにそばにいてほしいのは誰？奥さんじゃない。君のお母さんだ。そして君だ。最後に会いたいのは君だ。そんなのわかつてる。大丈夫だ。

能美、拳を天に突き上げる。止まる。

能美 僕は君に伝えたいんだよ。そう。大人になってわかるようになった頃には僕はいないから。なにか伝えたいんです。要約するとそう。伝えたいのですよ。君はまだ今こんな、こんなんだから。(カメラに向かう)

いやもちろんそうだ。僕が君をオルグするのは僕の勝手だ。お父さんだつて。はい。金持ちなんだ残念ながら。お金持ちで、お天道さまに恥じないで道歩ける人はとつても少ないよ。きつとね。たいていお金持ちつていうのは、お金持ちになる途中で、お金持ちになるために、人生のある局面で、誠実よりは保身を。義よりは利益を。友情のある危険よりは大きな組織のある安全を。孤立よりは依存を。消極的にはそんなのを選んでるだろうし、もつともつと積極的にこれ貧しい人を踏みつけにするお金じゃないの？つて承知の上で笑顔でハンコ押ししたりしてます。お父さんだつて。繰り返すけど金持ちなんだ残念ながらお父さんはちよつとだけねごめん！いやいいんだ。いいの。少しくらいはいいの。だつて人間なんだから。完璧は無理。その上凡人は無理だよ。世界は隅々を見つめたら決して美なるものじゃなくて、基本的にはホツブズ。習ったでしよ政治思想史で。「万人の万人に対する闘争」これが世界だよ。第一義的にはそれに勝たなきゃ死ぬんだ。責めるな！自分を。だけど。いや少しの不条理は許せ。それが大人だ。社会だ。だけど。いやその少しが、胸にチクチク刺さる夜がある。はい。あります。違うんだよ少なくとも刺さつてこないような奴には少なくともなつてほしくないつてことだけでも伝えられたら、つてそう思つたりして、いやそれつまり自分みたいな奴になれ、つこと？恥ずかしいくない？恥ずかしいわ。そういう意味じゃないわ。

ああ。ちがう。最低限、なにかを全面的に信じたいと思うし信じたら実践したいと思うけれどそんなことほんとにしたら生命はほとんど維持できないので。でしよ？だろ？違うのか？

ああごめん。違う。なにが言いたかつたんだつて？ちよつと喋ると喋るだけ自己嫌悪の方に自己嫌悪の方に思考がぐるぐるぐるぐる回つていつて。水が低い方に流れるように思考は自己肯定感の低い方に低い方に。なんだ俺は。

だから！違う。私は、やつぱり自信を持つよ。持つてるところを大事にして、君に語るよ。偉そうに言つてるんじゃないぞ。君の問題だから率直に言うんだ実にニュートラルに。ねずみ講にひつかかるな、おいしすぎる話に飛びつくな、つていうでしょ？君は君を守れ。自分の身は自分で守れ。僕は、君が闘うことが、社会が権力と闘うことが、社会を、君を守るすべだとやつぱり思うから闘え、つてやつぱり言うよ。短期的には損するかもしれない。自分だけおいしい思いをしようとする裏切り者はいつでもいるから、そいつらだけ権力者や金持ちにかわいがられてねたみたくなるしあほらしくなることもあるだろうと思う。だけど。俺は。ここにいるおつちゃん。ねたみ心がむらむら突き上げてくるのをおさえよう辛抱しよう闘いの勝利を信じよう脂汗流す君の方が、ねたんでねずみ男になつて君より百倍好きだよ。一〇三倍好きだよ。リアルに、そつちのほうが好きだよつて意味だよ一〇三つて。ああだけどおまえどのツラさげてそんな偉そうに言う？

頭を抱えてしまふ。恐る恐る頭をあげて、

能美 六十一年生きてきて、結局立派じゃなかつたこの人生がもうすぐ終わるから、だからこそわかつた面倒くさい後悔があるから、それを正直に喋るんだ！(後半は怒鳴る。しばらく間。落ち着きを取り戻して)

やはり。中立的な立場に立つたとして。な。やつぱり言い切らないといけない、君にだけは、と思



う。だってこれは、それは、やっぱり、どうたくましく反論を、反証を試みてもその反論が成り立たないから。考えれば考えるほど。戦争は必要戦争は進歩のために必要な歴史の必然？避けられない人類の癖？たいしたことない問題のないふざけっこ？いや戦争になんかならないよ？そういう反論がっじつまあつて成り立つことがやっぱりないから、全くないから、私は、勝手に、ここで、胸の中で、切迫するんです。せつばつまってくるんです。だから主張する。主張すると恥ずかしい。君から反発される。かまわない！言い切つてあとは自分で判断してくれ鶴呑みにせよということじゃないんだ。自分で考えてくれ。ただ、お前の父親はこう考えていた、つていうことを知らないままではなくて知つた状態で考えてほしいと思うだけだ。つていうところまでひきさがつてもいいよ。いや決してほんとに、父親の言葉なんだから影響は与えるはずだ、とかは思つてないんです。かけらも。違う。そういう意味じゃない。これは友人だから、ということでもいいのかもしれない。君の受け取り方はそんな程度で全然いいんだと思う。だめ？わがまま？わがままでしょだつてこのビデオを残すことなんてそれ自身が迷惑かもしれないんだ。撮るのも時間の無駄かも。見るのも無駄かも。独りよがりの、あとに残された者にとつては意味のないオタクっぽい趣味かも。いい。いいんだ！承知の上で。だけどちよつと最大の工夫くらいはして、残すぞ。ごく一部は、きつと君にも届くだろうと思うんだ。きつとごく一部はね。僕が思っているような全面否定にはならないんじゃないかと公平に見ても思える。違うかな。だつてもしかしたらやっぱり君には父親のことが気になつてるでしょう。どんな男だつたんだろうか、つて少なくとも。気になる年齢があるでしょう。そんな歳がやつてくるんだ。気にしないで生きられる母子家庭の子供がいるだろうか？いないと思う。ああごめん！ほんとにごめん！

土下座する。

能美 君は、父親のこと知らない青年になるんだよね。そんな青年がある日これを突然見るんだよね。いろいろイメージだつてあつたらうに、あつためてたらうに、スイッチ押すのも怖かつたらうに。よくプレイボタンを押してくれたね。こんなのが映つて、びつくりしただらうね。こんな何十分も経過したころになにを言つてるんだ。ばかじゃないの。ああ。ごめん。

落ち着いて、座る。

能美 延々と、自分に興味のないことを語り続けやがるおっさんの映像に画像に音が続くんだらうね。そういうことになつてるんだらうねきつと。いや間違ひなくそうだよ。だけどその顔を延々と見てたらなにかは思うでしょ。なんだか汗かいてるなあ、とか。なんだか眉毛が自分と似てるなあ、とか。思つていい。思うのは勝手だ。そのくらいのことでもいいから君がなにかを思うことに僕は賭けるよ。賭けたいと思うよ。

うろろろ歩く。背中向けてちよつと考えて。横の木を見て。

能美 オルグするんだ！だつてそうだ。一番僕がオルグしたい相手は誰だ？君だ。職場の山口君もそうだ竹中さんつてきれいな女子職員もオルグのつもりでお茶に誘つた。だけどよこしまな気持ちを加えて足し算してオルグしたい気持ちの山を作つて比べても、僕には、君が、息子である君が一番オルグしたい人だつていうことは確かだと自問自答して迷つた挙句に思つたから。だからオルグをするんだ。やりませう。よろしくお願ひします。

(新たなメモをズボンのポケットから取り出す)

「防衛省の二〇一五年度予算の概算要求額が過去最大となる五兆五四五億円にのぼつた。垂直離着陸輸送機オスプレイやF―三十五戦闘機の購入費などが計上され、」  
五兆円です。すごい金額が、軍事予算に既に使われているのが日本なんです。兆、つて単位は、億、

の一万倍なんです。ところで。

唐突に、カメラに近づく。カメラをつかんで、そのカメラに向かって、

能美 俺は。俺は。このビデオを君に届けることができるんだろうか。ほんとに。

いったん、カメラから離れる。落ち着こう、と努めるように、目は宙を泳ぐ。

能美 明日、また君のお母さんと話すんだよ。会ってくれるっていうから。そうだ。だけど。泣いてた。お母さんは。今日。

またカメラに急接近、つかむ。

能美 別れたくない。だったら俺は、今、今日、なんのために生きている？

場面転換。照明が青くなり、あわててギターを片付ける能美の姿が見える。音楽「I Can't Help Myself」。

役者は水を飲み、衣装を着換える。少し休憩。音楽が小さくなるまでには椅子に座っている。

### 第三場 翌日の昼

能美 「イスラエル軍は八月十九日、パレスチナ自治区『ガザ』北部への空爆を再開した。空爆により増える犠牲者のほとんどは、女性や子供を含む民間人だ。今回の攻撃で最も激しかった場所のひとつ、パレスチナ ガザ南東部のフザー村に入った。今年二十歳になったへばさんは結婚し、一児の母になっていた。」

これも今年の話です。アメリカの同盟国、イスラエルは圧倒的に強くて、パレスチナって地方に住む人たちにたびたび空襲をします。アメリカの同盟国、っていうことは、日本の同盟国、っていうことです。このへばさんというきれいなアラブの娘さんは、この五年前、お母さんをなくしてます。同じイスラエル軍の攻撃で。けどお母さんのいない結婚式を挙げたんだね。で赤ちゃんも生まれたんだよね。よかったよね。

「七月二十一日の朝から空爆が始まりました。夜に空爆が激しくなり、空ではイスラエルの無人偵察機ドローンが写真を撮っていました。家の一部やガス管までも壊され、ひどい匂いがしました。私は小さい赤ん坊を抱いて、イスラエルの特殊部隊が来る前に家族とともに別の家に避難しました。」

無人偵察機、っていうのは人が乗ってない飛行機。おなかのところカメラがついてるんだよねきつと。それでグーグルマップの車みたいにな自動的にカシヤン、カシヤン、カシヤン、って断りもなしに写真撮ってるんだよ。なんのために？爆撃の目標を探すために。いやだよねそりゃだっさいの見たついたら落とすぞ、って写真撮影だよ。ピースとか、やれないよ。やれんかピースって。平和じゃないって。

「そこには三十人ほどが避難していて、『すし詰め状態』だった。水も食料もない環境だったという。

滞在四日目になった時、特殊部隊やスナイパーが攻撃してきた。ここも安全はないと判断したへバさんは、皆と白旗をもって外へ出て、村を脱出しようと歩いた。

『戦車は私たちとそんなに離れていない距離にいて、主砲は私たちに向けられました。兵士は大きなメガホンで、私たちに“歩き続ける”と言いました。そこにはお年寄りも女性も子供たちも車いすの人たちもいました。戦車に乗った兵士は、私たちが歩いている足と足の間を撃ってききました。死を間近に感じました。』

想像してる？足と、足の間を狙って、鉄砲を撃つ、って。撃つの上手な兵隊さんだったら上手に間の地面をチューン、っていけるだろうけど。ちよつとへたつびだったら？足ドスン？上手でもちよつとかくんって戦車が揺られて鉄砲が動いたら？おなかどすん？なにふざけて撃ってくるの？こつちは女子供だよ？赤ちゃん。きれいな若いお母さん。そこらへんを、歩いている。ジャスコの角っこ歩いているでしょ。

『誰も助けてくれる人はいませんでした。いつとき、赤ん坊をいとこの若者に抱いてもらっていました。私が彼から赤ん坊を受け取った一分後、なんとミサイルが彼を直撃し、彼は死にました。私は、赤ん坊も死ぬのではないかと思いましたが』なんとか村の入り口付近までたどりついたへバさんらは赤十字に救われ、今は親戚の家に避難している。』

もうだめでね。君が生まれてから、すつかり、赤ちゃんが出てくる話に弱くなっちゃって。ああ。やつぱり違うんだよ。実際に自分の子供をだっこするのは。なんというか、絶対いやだ。赤ちゃんに敵も味方もないのは確かだ。絶対に無力で。で、絶対にどの親も、こんなふうにご子供のことを無条件に、無条件に、ね。愛してる。赤ん坊が。抱いている若者がドスンとやられて、赤ん坊が。はあ！

だけど。日本の同盟国であるアメリカの同盟国がこんな残酷な虐殺を今年、夏にしている、つてことを、この日本の国でどれくらいの人が、この夏に、知ってるだろう。きっと、ほぼ知らない。このイスラエルつて国が強力な戦闘機を開発しようとしている。そこに三菱重工が共同開発に参加させてよ、つて手をあげてる。武器輸出三原則、つていうのが解禁されて、お金儲けが外国の戦争でできるようになったから。その儲けた金で、私たちはちよつと不況から逃れられるかもしれない。ほつとほつとしてる！いやところが実際はそのもうけもほとんど賃金にはまわらなくて企業の内部留保か株主への配当にまわるだけ、つまりはお金持ちの懐の中でぐるまわつてくだけなのに。ほつとしてるのばかみたくないのに！

違う。言いたかったのは、そんなことも知りもしないのが日本人の大半なんだつてことで。なぜならテレビでは報道しないからで。どうしてテレビで放送しないのか、つていうとテレビつて完全に百パーセント大企業のスポンサーで成り立ってるからで。つまり大企業が知らせたくない内容は放送しないことになってるからで。で、日本人はいまやテレビが大好きで。テレビ以外の情報は実は信用してないし逆に言うテレビでやることが世界のすべてだと思ってるわけで。思わされるわけで。だからテレビ以外の情報、政府や大企業の都合の悪い情報源を手に入れないと我々はやすやすと情報操作されてしまうわけで！ああ！

顔を隠す。

能美 お母さんが会ってくれなくなりました。私はどうやってこのビデオをあなたに渡そうか。

ギターを手取る。ひくのはやはり「禁じられた遊び」だ。演奏の半ばでギターをおいて。天を仰ぐ。

能美 引つ越し先もわかりません。人生は。

首をひねって、

能美 なんだったんだろう。

どこかから「禁じられた遊び」のギターの調べが聞こえてくる。能美、きよろきよろとあたりを見回す。  
終わり。

参考文献

日本国憲法 第九条

週刊金曜日二〇一四年八月二十九日号

同 九月五日号

週刊MDS 二〇一四年七月一八日号

同 八月一五日・二二日合併号